



京都府北部(丹後地域)における 鉄器の導入と社会の変化

野島 永(財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター)

1. 弥生時代中期 - 集落出土の鉄器と玉作り -

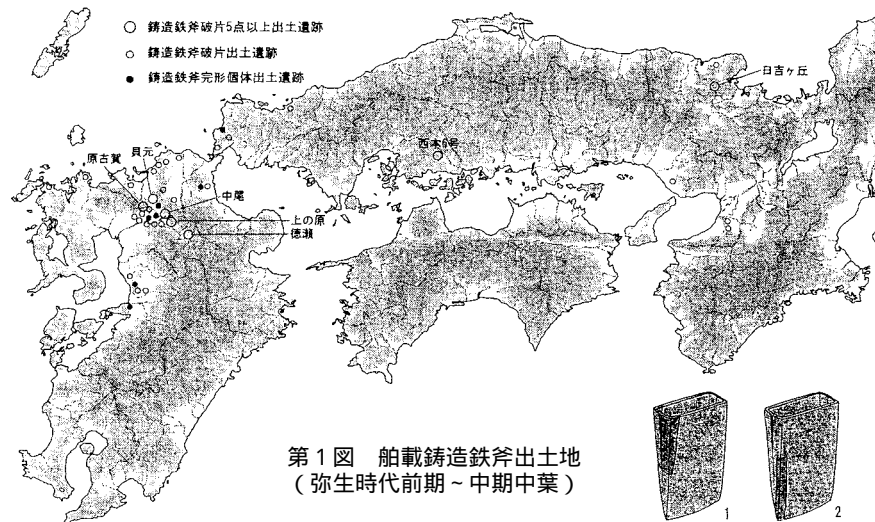
京都府北部では、弥生時代中期に中郡峰山町途中ヶ丘遺跡や同町扇谷遺跡・舞鶴市桑飼上遺跡などから、鉄鏃や袋状鉄斧・板状の利器などの出土が報告されている。扇谷遺跡では、中期前葉の鍛冶滓が出土していることから、この地域における弥生時代中期の鉄器生産を考えてもおかしくはない。

与謝郡加悦町日吉ヶ丘遺跡では、中期中葉に遡る鍛造鉄器や鑄造鉄器が出土した。鑄造鉄器の破片は、前漢の鑄造鉄斧(鏃)や一字形の鋤同様、袋部空隙が刃部付近まで造形されるもので、漢の鑄造技術で作られたものであろう。中期後葉の竹野郡弥栄町奈具岡遺跡には、鑄鉄を加熱することによって個体のまま酸化させて脱炭し、鉄の組織を強靱な鋼に変化させた鉄片も認められ、当時の漢の先端技術で作られた鉄素材の破片も入手していたことがわかる。奈具岡遺跡は、玉作りを専業とする中期後葉の集落で、七四基もの竪穴遺構や竪穴住居跡が検出された。碧玉・緑色凝灰岩や水晶など、膨大な石材群とともに、石錐・石鋸・筋砥石、鉄製工具などの加工生産具も出土し、原石から製品までの製作工程が明らかになった。玉作りに使われた鉄製工具とその未製品の多量出土と韃羽口や鍛冶炉の存在から、玉作用の鉄製工具の加工も行われていたことがわかった。多くの人々が従事したこの装身具生産であったが、その製品は朝鮮半島や北部九州への贈答品として生産され、鉄資源と交換された可能性も考慮すべきであろう。

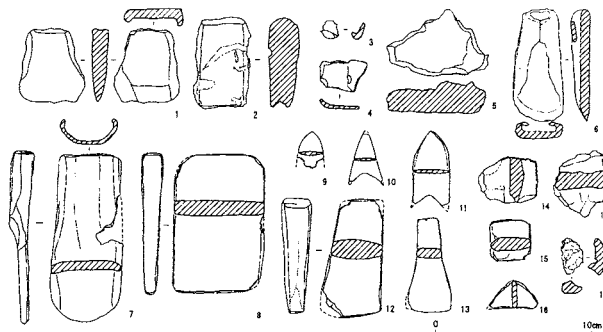
2. 弥生時代後期 - 墳墓出土鉄器とその特徴 -

日吉ヶ丘遺跡にみられた貼石方形墳丘墓は中期後葉にさかんに造られたが、後期には影をひそめる。後期前半、丘陵を区画・整形することによって長方形平坦面を確保して埋葬を継続させつつ、連接した台状墓が丘陵全体を覆っていくようになる。このような墓地の埋葬手順は、韓国の慶尚南道金海市良洞里墳墓群の墓壇配置にも類似しており、後期前葉においては朝鮮半島南東部からの墓制の影響を窺うことができる。しかし後期中葉以降、丘陵上に独立した方形の墳丘と墳頂平坦面をもつ台状墓が造営される。方形墳丘墓が卓越する近江や東海地方との結びつきが強くなることが、独立した方形台状墓を成立させたのかもしれない。丹後地域の方形台状墓は、その中心に大形化した墓壇を穿ち、鉄剣一振りか二振り、あるいは鉋などの鉄製工具を副葬する場合が多い。山陰地方東部や北陸地方東南部では、京都府北部同様に、方形台状の墳丘に鉄製刀剣類を副葬するものがある。山陰地方や北陸地方は、四隅突出形墳丘墓が展開していく地域であるが、むしろこの方形台状墓に鉄製刀剣類を頂点とした鉄器副葬が顕著にみられる傾向があり、近畿地方北部との関係を窺うこともできよう。

また一方で、与謝郡岩滝町大風呂南一号墓から出土した鉄剣には、短い茎部をもち、刃部部に双孔を穿つ列島独自のものがある。このような刃部双孔の鉄剣は、近畿地方よりもむしろ北部九州やその周辺、あるいは東海・関東地方にみられるものである。東方諸地域との交流を示唆する副葬鉄器といえる。丹後地域の首長達は、そのリーダー・シップを示すために素環頭鉄刀や鉄剣、各種釧などを入手し、装身具を大量に生産した。彼らは、日本海側沿岸の諸地域と連携し、それらの地域と近畿・東海地方との間にあって、貴重財の仲介的な交易に目をつけたと考えることもできそうである。

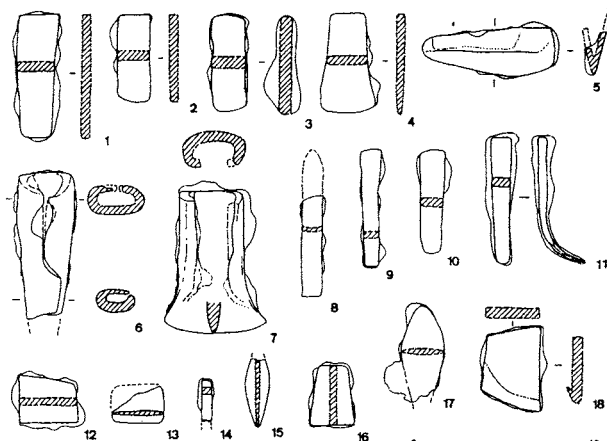


第1図 舶載鑄造鉄斧出土地
(弥生時代前期～中期中葉)

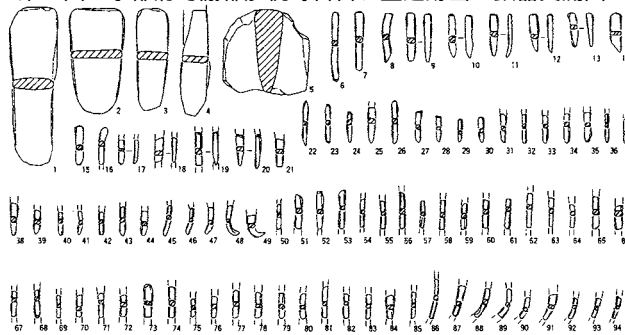


1. 治中ヶ丘遺跡 2～5. 原谷遺跡 6. 桑原上遺跡 7～18. 奈具岡遺跡

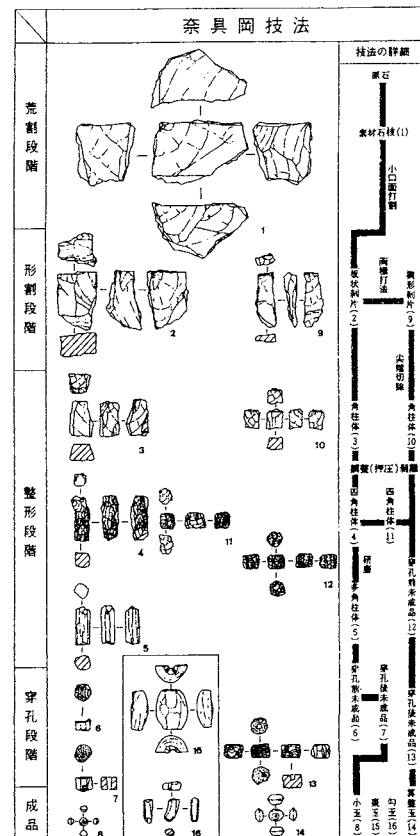
第2図 丹後地域集落出土鉄器の類例(弥生時代前期～中期)



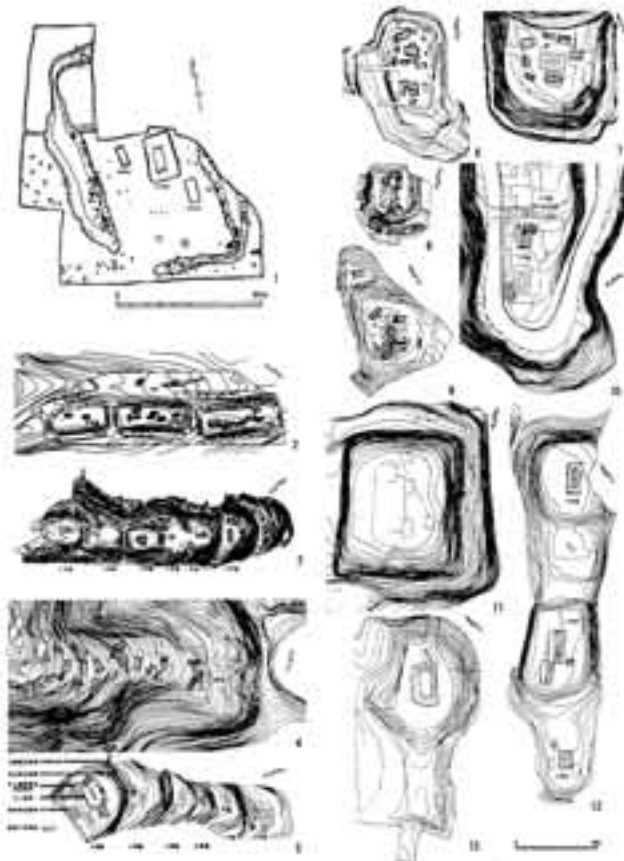
第3図 京都府与謝郡加悦町日吉ヶ丘遺跡出土鉄器実測図



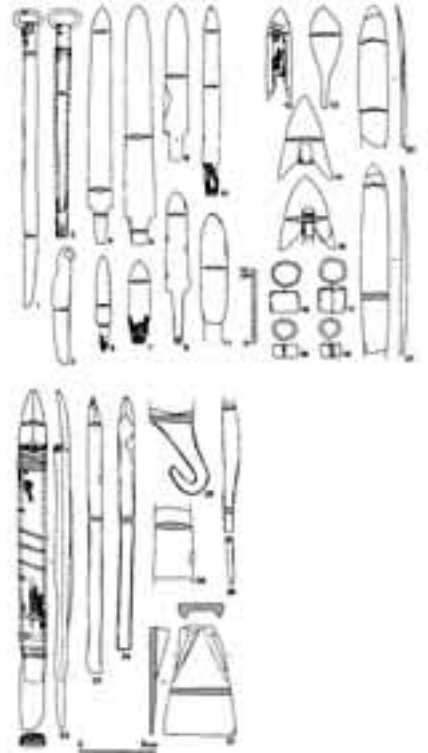
第5図 奈具岡遺跡における玉作専用鉄製工具類



第4図 奈具岡遺跡における玉製作工程(水晶)

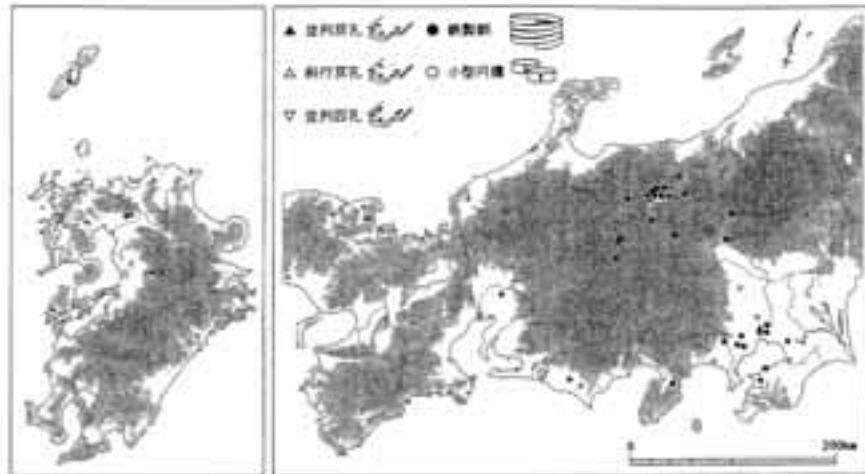


第6図 丹後地域の墳丘墓

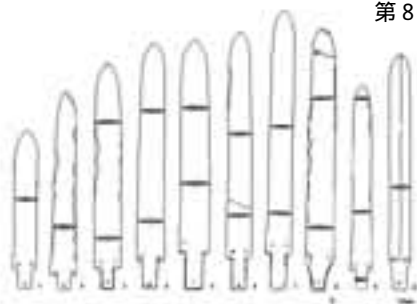


第7図 丹後・但馬地域における墳墓出土副葬鉄器

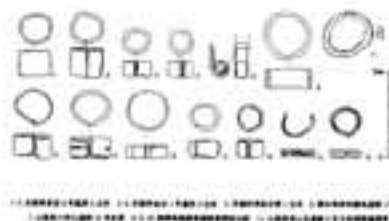
1. 中継(200) 2. 中継 3. 中継 4. 中継(100) 5. 中継(100) 6. 中継(100)
7. 中継(100) 8. 中継 9. 中継 10. 中継(100) 11. 中継(100) 12. 中継(100) 13. 中継



第8図 刃関双孔鉄剣と鉄釧・鉄製小型円環出土地
(弥生時代後期)



第9図 近畿地方の刃関双孔鉄剣



第10図 鉄製小型円環(1~4・6・7)
と銅製小型円環(8~14)



第11図 鉄剣の再加工(中期後半)

第12図 銅釧および鉄釧の再加工